



第18号
968-6-19
ークラブ

第203回例会

例会場 函館拓銀ビル
例会日 毎週水曜日
12.30~13.30

本日のプログラム

深瀬新会長の挨拶 その他

ボックスに全快祝として一封、厚く御礼申します。

＊ 出席報告

1. 本日の出席 会員39名 出席32名 欠席7名
2. 前回の出席率 会員39名 出席33名 欠席6名
他クラブ出席3名 合計36名 92.31%
3. 他クラブ状況 函館R、C 94.64% 函館東 94.74%
4. 5月平均率 函館R、C 93.92%
函館東R、C 93.12%
函館北R、C 95.79%

＊ 卓話

「最近の造船技術の進歩について」

函館ドック生産技術課長
相馬宏二氏

現日本の造船業は新聞その他で御高承のとうり、世界一を12年間独占して居り本年で13年目であります。昭和31年175万トンを建造以後上昇を続け、一昨年は670万トン、昨年は700万トンであります。造船内容は昭和30年前後は6割が国内用、4割が外国向け。昭和40年を契機として国内船が4割から3割5分に低下し、外国船が6割～7割程度を占め、世界60ヶ国を相手として居り造船王国日本として世界に雄飛して居ります。

日本造船界は戦前軍艦を建造した優秀な技術を戦後民間に全部投入した事と、戦前から一流に近い溶接技術の高度の研究の結果であります。これが昭和30年の朝鮮動乱。スエズ動乱に依る船腹不足に加え、西欧の建造能力はピークとなり、日本に発注となつて実力が世界に紹介されました。

日本技術陣はブロック建造法を考え出してイギリス造船界を脱落させ、昭和38、9年より超大型船の建造に移り、専用船が現在の大半を占有して居ります。最近ではコンピューターを工作技術を利用して技術革新を行ない、電子写真を用いて鉄板に大きくラインを引伸ばし電子焼付けを行なつて居ります。現在は船の内部装備したブロックを造り、継ぎ合わせると船が出来上がるとか、ワンマンコントロール化も研究されて居りますが、斯様な研究が各々造船会社の技術者が自己の会社の枠外で技術交換、研究をなし、或る方法が考案されると、直ちに発表して実用されると言う事が世界のトップを行く大きな要素の一つとも思考されます。

＊ 司会

俣野会長

＊ ゲスト

米 斉 唱 手に手つないで
笹尾昇氏 (青函船舶鉄道管理局長)

＊ ビジター

畑田英明君 (九州佐世保南C、食料品小売)
金井辰雄君 (富山南C、酒)

秦良平君他13名 (函館) 鈴木武二君 他11名 (函館東)

＊ 幹事報告

1. 今晚 (19日) P、M6時より、入川に於いてアセンブリーが行われますので、多数の出席を望みます。
2. 親睦委員戸栗君が拓銀主催大沼カントリークラブに於いて、Bクラス優勝おめでとうございます。尚、参加人員は100名でした。

＊ ローターイダより

1. 江差R.C 6月21日の例会は創立記念例会として、18時半 (於松月) 開催されます。
2. 小樽R.C 6月25日の例会は、期末会員懇親会として、17時半 (於ニューメンバー) 開催されます。
3. 釧路R.C 6月27日例会は、18時 (於三輪ビル) と変更になりました。

＊ 出席報告

1. 本日の出席 会員40名 出席34名 欠席6名
2. 前回の出席率 会員40名 出席32名 欠席8名
他クラブ出席5名 合計37名 92.5%
3. 他クラブ状況 函館R.C 93.72% 函館東R.C 92.11%

米卓話

“青函局と十勝地震のその後”

青函船舶管理局長

笹尾昇氏

十勝沖地震から既に1ヶ月が経過致しましたが、天災とは申せ大変御迷惑をおかけ致しております。本日は、地震当日の模様、復旧経過、局の計画、予定等をお話申し上げたいと思っております。

16日午前9時49分に地震がおき、青函局管内では20本の列車が運行しておりました。幸い1.5分後に全面的に無事であるという事で安心致したことでございました。

しかし、青森側は激震ということで、青函輸送が心配されました。調べに依りますと、函館の第1岸壁、青森の第1、第2は少しの修理で使えることがわかり、結局連絡船は10往復出来る見通しが立つたわけです。しかし平常、22~23往復ですので、平時の4割程度の輸送能力にすぎません故、この復旧対策には力を注いだ次第でございます。

又、列車の方は、30分程で全路線の点検を終えて運転を開始することが出来ました。

被害で一番大きかったのは、第2岸壁のケイソンが海の方に50cmゆがんでしまったことであり、又建物の方で、待合室の柱がほとんどやられまして使用不能となり、更に第2岸壁への通路が使用出来ぬ状態になったことでございます。その他なお3、4ヶ所被害を受けておりますが、幸い、青森、函館に乗船客がおらず、不幸中の幸いでございました。

その後の対策と致しましては、手小荷物、新入会員 太刀川千吉郎君

切符等の扱いを、棧橋と駅をひとまとめにするほか、2、3の構想を持つて仕事を進めております。尚、若干PR的話になりますが、今秋と来春にそれぞれ大型新造船がお目見え致しますし、又道南各路線の複線化を計り、輸送能力の増大を考えております。又、国鉄は道内で最高の納税をしておりまして、その他にも借入金も多く、こうお話申し上げているうちにも多額の返済を考えている次第でございます。

蒸気はなくなりましたが、火の車でございまして、早く返済を済ませて立派な鉄道にしたいと日夜念願努力している次第でございます。



Weekly Report of Hakodate North R.C

第204回例会

例会場 函館拓銀ビル

例会日 毎週水曜日

12.3.0~13.3.0

“参加して敢行しよう！”

(Participate)

7月 ~ 七夕で愈々盛夏

1日 函館開港記念日 13日 盆迎え火

国民安全の日 16日 やぶ入り

7日 七夕 20日 土用・海の記念日

10日 国土建設週間

本日のプログラム
深瀬新会長の挨拶 他

※ 司会 俣野会長 ※ 斉唱 奉仕の理想

※ ビジター 岡田小治君(士別C・酒類販売)
高野源蔵君(札幌RC・水産加工)
棟方 忠君 他8名(函館)
森岡 勝君 他12名(函館東)

※ 幹事報告

1. 小笠原の本土復帰が本日零時20分を期して成りました。23年ぶりの復帰で、本当によろこばしい事でありました。
2. 先に寄贈のスピーカーに対し、交通安全協会から感謝状が届いております。

※ 出席委員だより 遠藤委員

1. 過日、3年間無欠席の方を表彰致しましたが、その後1年間無欠席の方をも表彰したいと会長にお願い申し上げましたところ、賛同頂き、本日11名の方にモーニングカップを贈り表彰致したいと思っております。

受表彰者は、青柳・平野・高崎・野村・杉本・高杉・山辺・山内・下郡山・布目・杉の11君であります。